

- 問1 戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため | 2. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため | 3. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため | 4. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため |
|---|---|--|--|
- 問2 日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。 | 2. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。 | 3. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。 | 4. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。 |
|---|---|---|---|
- 問3 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 御成敗式目 | 3. 武家諸法度 | 4. 公家諸法度 |
|--------|----------|----------|----------|
- 問4 戦国時代、現在の福井県にあたる北陸地方の要所に位置し、戦国大名の朝倉氏が有力な家臣を城下町へ集住させて築き上げた拠点の名称を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|-------|
| 1. 一乗谷 | 2. 山口 | 3. 小田原 | 4. 安土 |
|--------|-------|--------|-------|
- 問5 大航海時代において、ポルトガルの航海者バスコ＝ダ＝ガマがインド航路の開拓に成功したことが、その後のヨーロッパ諸国に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|---|---------------------------------------|--|
| 1. 宗教改革が始まり、キリスト教の布教を目的とした航海が中止された | 2. 大西洋を西に進む航路が否定され、すべての探検家がアフリカ経由を目指すようになった | 3. アメリカ大陸への植民地支配が終了し、交易の拠点がすべてアジアへ移った | 4. 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した |
|------------------------------------|---|---------------------------------------|--|
- 問6 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。（2025年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|------------|---------|---------|
| 1. 寄親 | 2. キリシタン大名 | 3. 守護大名 | 4. 戦国大名 |
|-------|------------|---------|---------|
- 問7 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。 | 2. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。 | 3. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。 | 4. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。 |
|--|---|--|--|
- 問8 1543年、九州の南方に位置する種子島に漂着した中国船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|
| 1. ポルトガル人 | 2. スペイン人 | 3. イギリス人 | 4. オランダ人 |
|-----------|----------|----------|----------|
- 問9 16世紀半ば、種子島に漂着した西欧人との交流によって日本にもたらされた武器について、その名称と伝えた人々の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------|---------------------|------------------|--------------------|
| 1. 日本刀をオランダ人が伝えた。 | 2. 弓矢を中国（明）の商人が伝えた。 | 3. 大砲をスペイン人が伝えた。 | 4. 火縄銃をポルトガル人が伝えた。 |
|-------------------|---------------------|------------------|--------------------|
- 問10 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。 | 2. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。 | 3. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住ませ、商人には立ち入りを禁じた。 | 4. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。 |
|--|---|---|---|
- 問11 1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。（2019年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|----------|--------|---------|
| 1. 宗教改革 | 2. ルネサンス | 3. 十字軍 | 4. 産業革命 |
|---------|----------|--------|---------|
- 問12 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された | 2. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった | 3. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った | 4. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた |
|--|--|---|--|
- 問13 加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。（2026年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。 | 2. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。 | 3. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を輸入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。 | 4. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の将軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。 |
|--|---|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問2	答え 3 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	元軍の襲来である「元寇」は13世紀後半（鎌倉時代後半）、足利義満による「日明貿易」の開始は15世紀初め（室町時代）、そしてフランシスコ・ザビエルによる「キリスト教伝来」は1549年（戦国時代）です。それぞれ、鎌倉・室町・戦国の各時代を象徴する重大な外交上の出来事です。
問3	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問4	答え 1 一乗谷	越前国（現在の福井県）を支配した朝倉氏は、一乗谷を拠点として栄華を極めました。それまで各地の領地に分散していた有力な家臣を城下町に強制的に住まわせる「集住」を行うことで、大名による統制を強め、軍力を集中させる体制を整えました。この仕組みは、後の近世城下町の先駆けとなりました。
問5	答え 4 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した	インド航路の発見により、貿易の主役が地中海から大西洋に面した国々へと移りました。これにより、ベネチアなどのイタリア諸都市が行っていた、イスラム勢力を仲介とする従来の貿易ルートは大きな打撃を受けました。
問6	答え 2 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問7	答え 2 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問8	答え 1 ポルトガル人	16世紀半ば、東アジアに進出していたポルトガル人が、種子島に漂着した中国船に乗っていたことから、日本に初めて鉄砲がもたらされました。当時の種子島島主であった種子島時堯（ときたか）がこれを買取り、国産化を命じたことで、日本国内での製造と普及が始まりました。
問9	答え 4 火縄銃をポルトガル人が伝えた。	1543年に種子島へ漂着したポルトガル人によって、火縄銃（鉄砲）が日本に初めて伝えられました。当時の種子島の領主はこれを買取り、刀鍛冶に命じて仕組みを研究させ、国産化を成功させました。これがきっかけとなり、鉄砲は瞬間に日本全国の戦国大名の間へ普及することとなりました。
問10	答え 2 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問11	答え 1 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問12	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問13	答え 2 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍事力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。